

「文化がまんなかにある大学が子どもを社会のまんなかにする」(山形県鶴岡市)

大東文化大学 社会学部 阿部ゼミ Hisu花チーム

過疎化と少子化が進む中で子どもたちが地元地域を親しみに感じ、子どもと大人が元気になる取り組み。

- ・大学生と地域住民が一体となって、地域づくりを楽しみながら、交流人口を増やす取り組み。

要約

- ・過疎化と少子化が進む中で子どもたちが地元地域を親しみに感じ、子どもと大人が元気になる取り組み。
- ・大学生と地域住民が一体となって、地域づくりを楽しみながら、交流人口を増やす取り組み。
- ・子どもたちをまんなか、**「Hisu花」**で遊び、地域を親しみに感じ、子どもが元気になる取り組みを提案する。

背景【山形県鶴岡市藤島地域の概要】

【鶴岡市藤島地域・初の人口1万人を切る】

- ・人口9452人(2020年)
- ・2022年生まれた子どもの数は45人

児童数355人(2021年)

⇒297人(2028年) 30%減

生徒数252人(2021年)

⇒144人(2028年) 44%減

目的

文化がまんなかにある大学が子どもを社会のまんなかにする。Hisu花からの地域づくりの挑戦

子どもまんなか一日オープン・キャンパス



藤島地域の子どもたちを中心に、藤島歴史公園での遊びの1日オープン・キャンパスの実施

ワークショップによる地域とのつながり



5/26第1回WS



9/7第3回WS(大東大生も参加)

テーマに沿ったイルミネーションの展開
「#あそべるイルミ」「#おいしいイルミ」



・ピンポンパン



・イエローコースター

↑係員の配置が必要なアトラクションであるため、11/3(Hisu花deないと)のみの開設になってしまった。



・大東文化大学のチュロス(Glicina)のふるまい
・手作りの缶バッチがちゃがちゃ(100円募金)

実現に向けて【組織・資金】

「Hisu花」ワークショップ <地域住民+大東文化大学・阿部ゼミによる混成チーム>

- 「Hisu花deないと2023」は、67団体による協賛で 67万円の実績。
- 缶バッチ募金 <100円でイルミ1球増>
- 荘内銀行ふるさと創造基金の活用
- 新たにクラウドファンディングの活用

子どもまんなか一日オープン・キャンパス

- ・大東文化大学100周年記念事業による「フレンドシップかるた」で学ぶSDGs文化体験
- ・日本で唯一の書道学科の学生と一緒にいる書道教室で書の文化体験
- ・鶴岡市出身の漢詩人・大東文化大学・初代学長・土屋竹雨の足跡から漢語を学ぶ・歴史文化体験
- ・JA庄内たがわのわら工芸部会による藁細工作りによる藁文化体験
- ・歴史公園にあるかまどを使い、「つや姫」誕生の町・ふじしま」によるやコメを知る食文化体験
- ・庄内による伝統野菜などを用いた調理体験を行う食育文化体験
- ・自分たちでイルミネーションのデザインを考える・美術・技術体験
- ・歴史公園に花を咲かせるたねダンゴの作りによる農業体験

まとめ ～期待される効果～

【藤島地域】

- 地域を担う子どもたちの多様な学びの提供
- 大学生・地元中高生との多世代交流の広がり
- 行政主導から住民主導による地域づくりへ

【大学】

- 100周年に迎えた大学の地域貢献
- 初代学長の地域への恩返し
- 継続的な学生訪問による交流人口の拡大